

令和8年度北部地区（児玉・大里）人権教育実践報告会報告者・テーマ一覧

分 科 会 名	報 告 者	テ ー マ
女 性 （ 男 女 平 等 ）	深谷市立桜ヶ丘小学校 成田 有香	一人一人が自分らしく活躍できる男女平等教育の実践 ～互いに認め合い、自らの意思によって行動できる児童 の育成～
	上里町立賀美小学校 清野 孝子	豊かな人権感覚を育み、自分を大切にするとともに、 他者の大切さも認めることができる児童の育成 ～発達段階に応じた男女平等教育の推進～
こ っ 子 ・ インターネット による人権侵害	本庄市立中央小学校 倉林 理恵	人をいたわり、素直な心と学びが輝く児童の育成 ～成長とその過程を大切に、相互に認め合う 教育活動の推進～
	神川町立神泉小学校 丸岡 祐介	「誰一人取り残さない」教育活動の実践 ～自ら未来を切り拓く児童の育成～
高 齢 者	熊谷市立妻沼小学校 増田 和江	地域と連携し、体験的な学びを通した社会で生きる 人権感覚の育成 ～高齢者にやさしいまち妻沼～
	埼玉県立本庄高等学校 吉田 光希	地域の高齢者との関わりと授業実践を通した人権教育
障 害 の あ る 人	深谷市立本郷小学校 藤野 光沙	自他のよさについて認め合い、支え合える児童の育成 ～人権感覚をより高め合うために～
	美里町立大沢小学校 高須賀 亜理紗	ともに生きる～自分もみんなも大切に～
同 和 問 題 （ 部 落 差 別 ）	本庄市立旭小学校 山崎 勇希	本庄市立旭小学校における同和教育
	寄居町立寄居中学校 岡本 和也	『夢に向かい、互いを尊重する人権教育の推進』 ～自他と地域のウェルビーイング向上を目指して～
外国人	熊谷市立熊谷東小学校 小林 嵩彦	熊谷市立熊谷東小学校における国際理解教育
	埼玉県立熊谷商業高等学校 小松 剛	埼玉県立熊谷商業高等学校における異文化交流の実践 ～様々な背景をもつ人々との協働していく態度の育成～

障害のある人分科会

自他のよさについて認め合い、支え合える児童の育成 ～人権感覚をより高め合うために～

深谷市立本郷小学校
藤野 光沙

1 はじめに

(1) 地域・学校の概要

本校は、県北部に位置し、深谷市の中でも一番西部にある開校138年を迎えた伝統ある学校である。学校の周辺には歴史ある寺院や神社があり、地区における伝統芸能等も代々受け継がれている。本校出身である家庭も多く、地域の方による学校応援団の活動も盛んである。また、学校周辺は雑木林や畑など自然豊かな環境に囲まれ、畜産業や農業が盛んである。学区内には児童養護施設もある。

児童数170人、通常学級が6学級、特別支援学級3学級（知的障害教室1学級、自閉症・情緒障害学級2学級）の計9学級と通級指導教室（発達障害・情緒障害）が設置されている小規模校である。学校教育目標「思いやりのある子 よく考える子 がんばる子 郷土を愛し誇りに思う子」を掲げ、『笑顔・元気・しあわせ』あふれる、地域とともにある 本郷小学校」の実現に向けて取り組んでいる。

(2) 研究テーマとの関わり

学校教育目標を受け、授業、給食、清掃、縦割り活動、学校行事など学校生活における全ての教育活動において児童一人一人の人権を尊重し、相手を思いやる心や、違いを認め合う意識をもたせることで、人権を尊重する教育の徹底を図っている。さらに、自他のよさ、違いについて認め合い、支え合える児童の育成を目標として取り組んでいる。

自他のよさ、違いについて認め合い、支え合える児童を育成するために、令和7年度より学校教育目標を変更し、思いやりのある子を1番目とした。

1学期始業式の校長講話では、「あ・い・う・え・お」の式の言葉を紹介し、意識して行動できるように促した。また、校内の花壇整備や、地域の方から寄贈された花を校内に飾り、花を活かした学校づくりを通して、「命を大事にする児童の育成」に取り組んでいる。

2 具体的な取組

(1) 全校での主な取組

ア 全校にていじめ防止・命に関わる授業の実施（4月）

イ 人権旬間（5月）、人権週間（12月）

- ・校長講話、人権作文、人権アンケート、人権ポスター、人権DVDの視聴、人権感覚育成プログラムを活用した授業の実施

ウ 人権教室の実施（1・4年）

人権擁護委員の方を招いて、紙芝居やDVDを使った人権授業

エ 彩の国教育週間の学校公開日における全校人権授業の実施

オ 地域の方との交流

- ・まごころ訪問…地域の特別養護老人ホーム「福寿園」との交流（ボックスティッシュの寄贈）

- ・まごころの花…一人住まいの高齢者の方へ花の寄せ植えの贈呈

- ・朝・夕の学校さんぽ（かけ算九九の暗唱）

- ・地域草刈りボランティア、クリーンタイム（校庭の環境整備）

- ・児童が栽培した野菜の販売

カ ありがとうボックス設置

- ・児童会を中心に「親切にしてもらったこと」を記入し、給食時に校内放送で全校に紹介

(2) 障害のある人の理解を深めるための取組

ア 個別の教育支援計画、個別の支援計画の立案に関する外部講師を招いての研修（4月）

イ 通級指導教室の担当と担任による日々の情報交換、打合せの実施

- ・週一回の指導後、担任へのファイル返却時に情報交換
- ・月一回の放課後に打合せ

ウ 通級指導教室に通う児童の担任による授業参観

エ 交流学习（たんぽぽ・すみれ・こすもす学級）

オ 支援籍交流（熊谷特別支援学校）

カ 福祉体験学習の実施（車いす体験）

キ 特別支援学級・通級指導教室を希望する児童の保護者との信頼関係の構築

- ・保護者による通常学級での授業参観
- ・担任や通級指導教室の担当、特別支援学級担任による見守り、支援
- ・特別支援学級見学、面談

ク 特別支援学級の児童による全国リズムダンス大会出場

- ・全国大会出場壮行会（全校による寄せ書き）
- ・ダンス動画の視聴、全国大会の中継の You Tube 視聴



「福祉体験学習の実施」
（車いす、アイマスク体験）

3 成果と課題

(1) 成果

ア 学校行事や授業の中で、他学年との交流を行うことで、相手の気持ちを考えたり、思いやりをもって過ごしたりすることのできる児童が増えてきた。教育活動に係わる自己評価では、「いつも心のこもった言葉で友達と生活しています」の項目にて、全校児童の「よくできている、まあまあできている」の回答が 95.9%（R7・7月実施）から 97.6%（R7・12月実施）と数値の向上が見られた。

イ 特別支援教育や、人権教育を尊重する授業・行事の中で、児童の人権問題に対する認識が深まり、多様性を認め合い、共生社会を実現することへの意識の高まりが感じられるようになってきた。

ウ 特別支援教育において、若手の教職員による新たな学びや活動の提案が行われるなど、校長の方針に基づいた実践が多くの教職員にみられた。



「PTA より全国リズムダンス大会出場を
祝した横断幕の寄贈」



「全国リズムダンス大会出場への
全校児童による応援メッセージ」

(2) 課題

ア 全職員の共通の理解のもと、人権教育上の視点に立った指導を行うための研修をより充実させていく必要性を感じた。

イ 今後も継続してこのような学習や体験を通して、自他のよさを認め合い、支え合うことのできる、自ら考え行動する児童の育成を行っていきたい。

障害のある人分科会

ともに生きる～自分もみんなも大切に～

美里町立大沢小学校
高 須 賀 亜 理 紗

1 はじめに

(1) 地域・学校の概要

本校は、明治22年7月15日に那珂第1学区大沢学校になってから、令和8年7月15日で138年目となる。歴史と伝統が受け継がれ、地域の学校として、保護者・地域の方々から絶大な協力を得ており、家庭・地域、豊かな自然環境に育まれ、素直な児童が多い。

全校児童は86名で、通常学級は6クラス、特別支援学級は2クラス（知的障害特別支援学級1クラス、自閉症・情緒障害特別支援学級1クラス）の全8クラスの小規模校である。

(2) 研究テーマとの関わり

学校教育目標「かしこく きよく たくましく」（よく考える子 思いやりのある子 たくましい子）を受け、授業や給食、清掃、たてわり活動等、教育活動全体をとおして、人権を尊重する教育の徹底を図っている。

2 具体的な取組

(1) 全校での取組



大沢小学校には、「大沢小しぐさ」というものがある。これは、江戸時代の町人たちが気持ちよく暮らすために大切にしていた生活の作法や思いやりの行動をまとめた「江戸しぐさ」を大沢小学校バージョンに作り変えたものである。（10のしぐさがある。）

学校朝会における校長講話にて、大沢小しぐさのルーツを知ったことをきっかけに、11個目の大沢小しぐさを児童が探す活動を行った。よいしぐさを見つけ、児童会と放送委員で放送するなど、普段何気なく行っているよいことに注目が集まるように学校全体としての取組を行った。

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
各学年のしぐさ	相手の話をしっかり聞く。	人の気持ちを考えた行動をする。	困っている友達を助ける。	困っているときに助ける。	言われなくても自分からしよう。	大きな声で返事をする。
こどもの変容	先生や友達の話を最後まで聞けるようになった。	順番を守ったり、相手にゆずったりできるようになった。	困っている友達に「どうしたの？」と声をかけることができた。	「大丈夫？」と声をかけて自分から行動できた。	自分から行動することで周りの人を喜ばせることができた。	返事は、相手に気持ちが伝わる大切な行動と気付くことができた。

(2) 具体的な取組

ア 障害のある人の人権についての授業実践（人権感覚育成プログラムの授業を含む）
埼玉県教育局人権教育課発行「新たな人権課題に対応した指導資料」より

（ア）低学年：花いっぱい運動

教師の意図：花を植えたり育てたりすることで人を大切にする気持ちを学ぶ。

（イ）中学年：高齢者福祉体験

教師の意図：体験を通して感覚としての理解を育て、思いやりの必要性を実感させる。

（ウ）高学年：目隠し散歩・人権クイズ

教師の意図：誰もが安心して生活でき、主体的に参加できる態度を育てる。

イ 障害のある人を理解するための取組

・高齢者疑似体験 ・ボッチャ体験 ・白杖体験 ・点字体験

題材「体の不自由な人や高齢者の疑似体験をし、どんな助けができるか考えよう。」	題材「障害の有無に関係なく誰とでも楽しめるボッチャを体験し、広めよう。」	題材「見えない世界を体験し、どんな助けができるか考えよう。」
令和7年10月29日（水） 2・3校時 4年1組	令和7年11月18日（火） 3校時 4年1組	令和7年12月4日（木） 2・3校時 4年1組
		
児童の感想（実生活で生かせること） 自分の住んでいる美里町も高齢者が安心して住める環境にして、高齢者を守りたい。階段や段差で困っていたら声をかける。	児童の感想（実生活で生かせること） 年齢関係なく地域の人と交流できるから、もっと機会を増やしたい。ボッチャだけではなく他にも誰もが参加できるゲームを知りたい。	児童の感想（実生活で生かせること） 点字ブロックの上に荷物や自転車を置かない。電車のホームで黄色い点字ブロックを歩かない。

3 成果と課題

(1) 成果

ア 人権についての授業実践や障害のある人を理解するための取組をとおして、障害のある人を支え、ともに歩もうとする意識の高まりを感じられた。

イ 一人一人、外見や考え方に違いがあることに気付き、それを受け入れ、人を大切にする心、尊重する心が芽生えた。

(2) 課題

ア 全教職員の共通理解のもと、人権教育上の視点に立って指導を継続して行えるよう、校内研修等を通じて、引き続き教職員の人権感覚を高めていく必要がある。

イ 実際に交流する場がないので、今後も計画的に体験学習に取り組み、互いのよさや違いを認め合い、指導していくことにより、自分たちの人権課題に気付かせ、主体的に行動できる児童を育てていきたい。